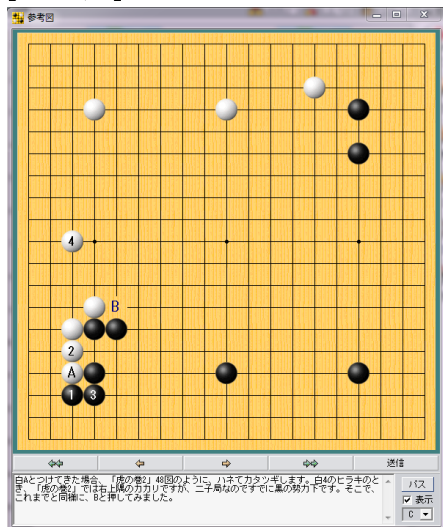


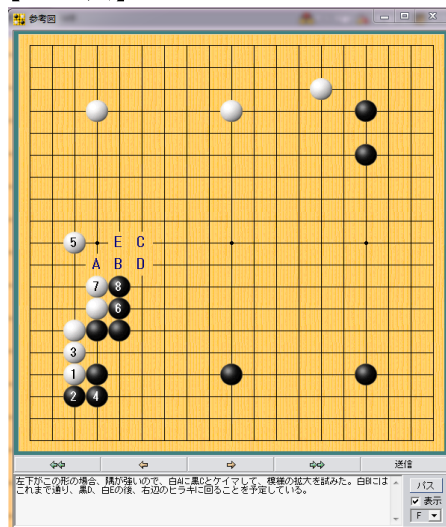
8. 別の展開例 1

【43-1 図】



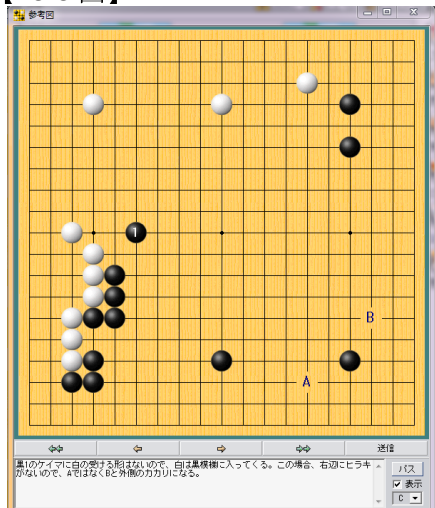
【43-1 図】 白 A とつけてきた場合、「虎の巻②」48 図のように、ハネてカタツギします。白 4 のヒラキのとき、「虎の巻②」では右上隅のカカリですが、二子局なのですでに黒の勢力下です。そこで、これまでと同様に、B と押してみた。

【43-2 図】



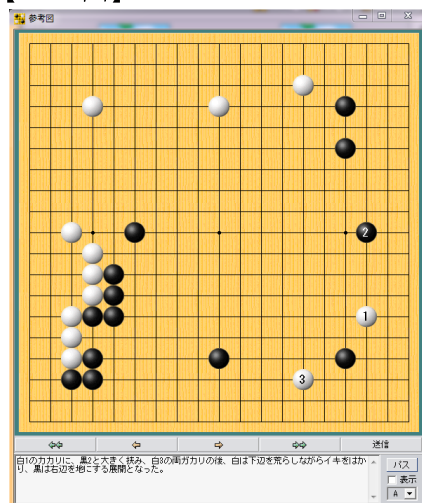
【43-2 図】 左下がこの形の場合、隅が強いので、白 A に黒 C とケイマして、模様の大拡大を試みた。白 B にはこれまで通り、黒 D、白 E の後、右辺のヒラキに回ることを予定している。

【43-3 図】



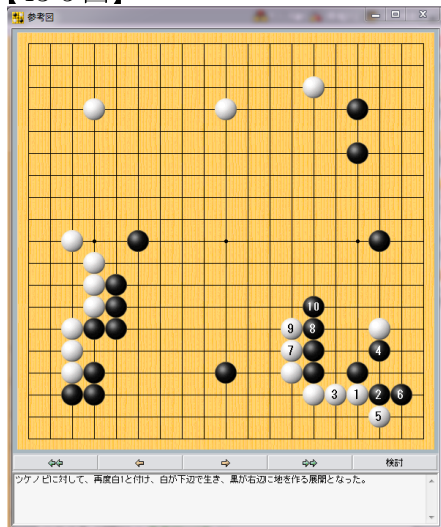
【43-3 図】 黒 1 のケイマに白の受ける形がないので、白は黒模様に入ってくる。この場合、右辺にヒラキがないので、A ではなく B と三連星の外側のカカリになる。

【43-4 図】

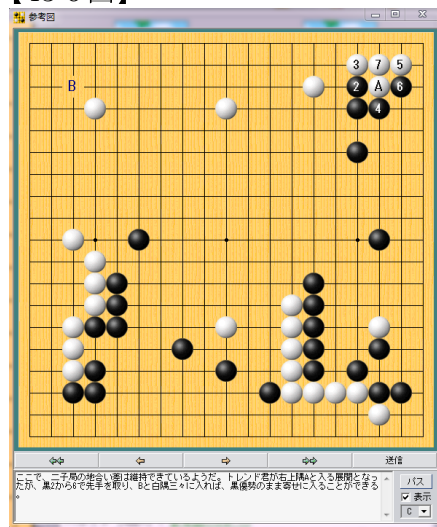


【43-4 図】 白 1 のカカリに、黒 2 と大きく挟み、白 3 の両ガカリの後、白は下辺を荒らしながらイキをはかり、黒は右辺を地にする展開となった(43-5 図)。

【43-5 図】

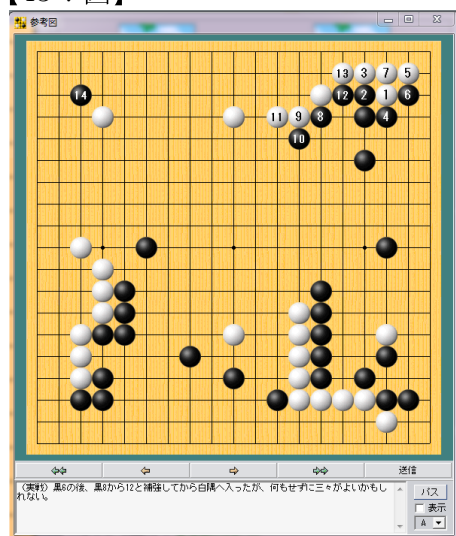


【43-6 図】



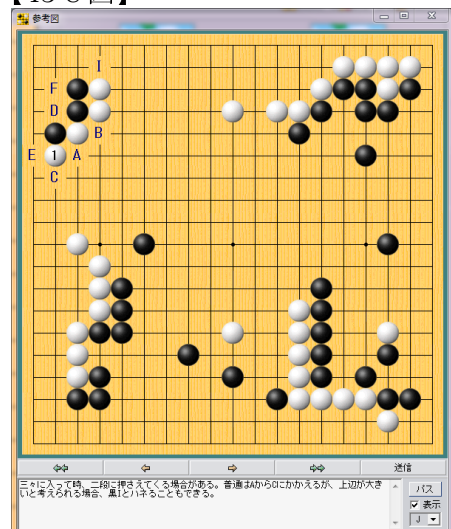
【43-6 図】ここまで、二子局の地合い差は維持できているようだ。トレンド君が右上隅 A と入る展開となったが、黒 2 から 6 で先手を取り、白隅三々に入れば、黒優勢のまま寄せに入ることができる。

【43-7 図】



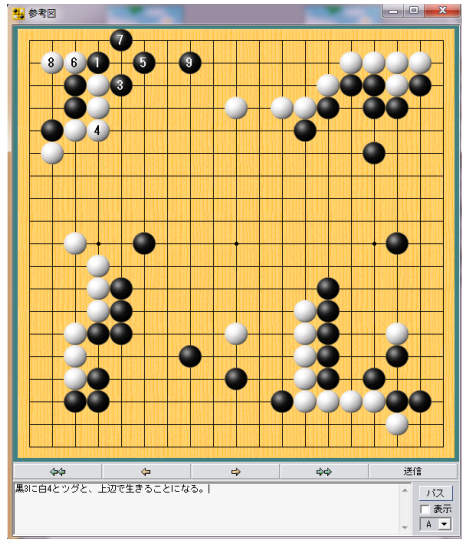
【43-7 図】(実戦) 黒 6 の後、黒 8 から 12 と補強してから白隅へ入ったが、何もせずに三々がよいかもしれない。

【43-8 図】



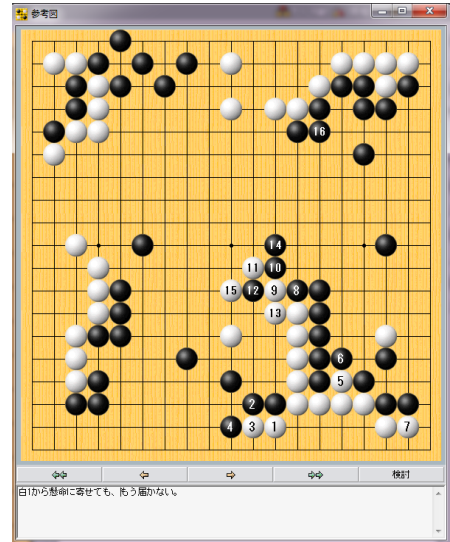
【43-8 図】三々に入った時、二段に押さえてくる場合がある。普通は A から C にかかえるが、上辺が大きいと考えられる場合、黒 I とハネることもできる。また、周りの白の状況によっては、A から C と抱えてもはっきり生きられない場合もある。

【43-9 図】



【43-9 図】黒 3 に白 4 とツグと、上辺で生きることになる。

【43-10 図】



【43-10 図】白 1 から懸命に寄せても、もう届かない。20 目近い差があると考えられ、この後、白は右辺で生きをはかるが、生きるスペースはなく、投了することになる。